

# アジアの健康支援に尽力

## 山下政一さん死去

78 歳

アジアの貧しい農村のため健康支援活動をしてきたNGO「アジア保健研究所」

(AHI) 日進市に創設から携わってきた元事務局長の山下政一さん(78)が2日、肺がんのため亡くなった。78歳だった。「軍国少年」だった反省から、戦後、福祉活動に取り組んだ。中国の文化大革命の時には香港で難民救援にあたり、ベトナム戦争中は家族で現地へ赴いた。その行動力をたたえる人は多い。(前川和彦)

### 行動力、晩年まで

山下さんは函館市生まれ。14歳で海軍志願兵となり、上海航空隊にいた17歳のとき終戦を迎えた。戦後は「これからは個人として国家と向き合いたい」と大学卒業後にYMCAに入って、肢体不自由児のキャンプなど福祉活動を始めた。

68年には志願して戦争中のベトナムに赴任し農村復興などにあたった。妻の登代子さん(72)は、決意を聞いた日のことを覚えている。

「夕食中でテレビは戦争を伝えていて、小学生の子ども2人と思いとどまるよう訴えたが、決意は変わらなかった。その晩は激辛のカレーライスのはずだったのが、水っぽい味しかなかったことを思い出します」

爆弾が住居の近くに落ちたり、道路が封鎖されて連絡が取れなかったりした。75年のサイゴン(現ホーチミン市)陥落寸前に家族は脱出。政一さんはその後も活動を続

けたが、捕まるおそれが出てきたため帰国した。

AHIへとつながるのが、ネパールのへき地の病院から帰国した医師川原啓美さん(78)と現AHI理事長との出会い。川原さんは「国際協力は金や物を与えるだけではなく、現地へ出かけるべきだ、と2人の意見が一致した」と話す。

AHIは8年に発足した。川原さんは医師の仕事が忙しく、アジアから来る保健ワーカーの研修

は山下さんが主に担当した。AHIでも海外の現場へ足を運ぶことが多かったが、60歳でAHIを定年退職してもすぐにポル・ポト政権崩壊後のカンボジアへ出かけ、4年間復興作業に従事した。

02年に名古屋NGOセンター理事長に就任し、ここでも行動するセンター、づくりの力を入れた。川原さんは「山下さんの温かい人柄に感銘を受けた。だから海外でも多くの人が慕われたのだろう」という。

5日に親族や関係者で葬儀が営まれた。AHIは近く「しのぶ会」を開く。



AHIの10周年記念会であいさつする山下政一さん。AHI提供、90年12月写す